

正副議長経験者に対するオーラル・ヒストリー事業

第71代・72代衆議院議長

河野 洋平

衆議院事務局

はじめに

国権の最高機関たる国会を構成する衆議院の正副議長を務められた方々から、その在任中に経験されたことや個別の政治的決定の中で正副議長として果たされた役割、判断の経緯や御自身の思い等について率直に語って頂くとともに、人生全般を振り返って、記録に残されていない政治的プロセスの実相やその豊富な政治経験から得られた卓越した知見を披露して頂き、それを広く国民に公開し、そして、衆議院に永久に保存し、後世に伝えることは、我が国の議会制民主主義の発展にとって極めて有意義なことと考えられます。そこで、今般、衆議院事務局として、正副議長経験者に対するオーラル・ヒストリー事業を行うことにいたしました。

その最初のインタビュー対象者として、令和元年五月に、当時としては憲政史上最長の二〇二九日間の長きにわたり議長を務められた河野洋平元議長に対して、衆議院事務局からオーラル・ヒストリーの実施をお願いしましたところ、河野元議長からは、「衆議院事務局であれば、正確に記録を残してくれると思うので、応じることにしたい」と快くお引き受け頂きました。

河野元議長におかれましては、四十二年余りにわたり衆議院議員を務められる中で、議長御就任以前にも幾多の政治的に重要な出来事に関与されましたが、今回、河野元議長御自身の政治哲学、当時の想いや関係者との秘話等を率直に披露して頂いたことをありがたく存じます。本件オーラル・ヒストリーが、今後、我が国が直面する諸課題の解決に向けた政治判断を行う際の参考となり、また将来の歴史的検証に資するものとなることを期待しております。

河野元議長のインタビューにつきましては、河野元議長の御意向も踏まえ、議長秘書として仕えた紅谷弘志元衆議院事務次長をメイン・インタビュアーとし、その他の事務局職員が、本来業務の傍ら、交代でサブ・インタビュアーを務めるという、事務局中心の実施体制で行いました。事務局として初めての試みであり、不十分な点もあろうかと存じますが、御容赦頂ければ幸甚です。

末筆ながら、改めて、本件事業に御理解頂き、コロナ禍による中断を挟み、約三年の長きにわたりインタビュー及び校正に応じて頂いた河野元議長、秘書の甲賀一雄氏、その他関係各位の御協力に厚く御礼申し上げます。

衆議院事務総長 岡田 憲治

河野洋平元議長のオール・ヒストリー実施概要

一 インタビュー実施期間

令和元年十月から令和四年六月までの合計三十一回

全ての回を対面で実施（於：政治工学研究所（河野事務所））

※コロナ禍において、アクリル板を設置する等、感染予防対策を講じて実施。また、感染状況に応じて、時間短縮や一定期間中断するなどの対応を行った。

二 インタビュー方法

（事前）事務局において必要な資料の収集・整理、年表作成等の準備を行い、簡単な質問票を事前に送付した。また、元議長の依頼を受けて各種資料の準備を行った。

（当日）メイン・インタビュアーによる質疑応答で進行し、適宜、サブ・インタビュアー（事務局担当者）が交代で参加からも補助的に質問を行った。

三 インタビュアー

メイン・インタビュアー 紅谷 弘志（元議長秘書・元衆議院事務次長）

サブ・インタビュアー

（交代で一～二名出席）

築山 信彦（元議長秘書）、二見 輝、吉野 貴浩、
清家 弘司、寺坂 龍児、田中 翔太、岡山 恵梨、
小田 亜希子、當麻 昇平、亀屋 将紀、佐々木 拳斗、鈴木 真理、森元 千優

記録部同席者

澤口 稔、飯塚 博、森下 めぐみ

※記録部において、速記録（第一次原稿）を作成

同席者

甲賀 一雄（元議長秘書・河野事務所秘書）

四 記録の作成

事務局において速やかに速記録を作成し（第一次原稿）、元議長に確認を仰ぎ、必要に応じて修正を行った（第二次原稿）。全てのインタビュー終了後、元議長の意向を踏まえ、その時点で依然として公開が不相当と思われる部分を除外した公開用の記録（第三次原稿）を作成した。

五 記録の保存及び公開方法

音声データ及び全ての記録は、衆議院が全ての権利を保有し、責任を持って永久に保存する。

公開については、衆議院ホームページ上での公開を原則とする。

〔備考〕メイン・インタビュアー略歴

紅谷 弘志（べにたに ひろし）

昭和五十三年衆議院に入り、河野洋平議長秘書、委員部長、調査局長等を経て、事務次長となり、平成二十八年に退職。



